

2018 年度ユニーク卒論

人間福祉 学部

| | |
|------------|--|
| 担当教員名 | 松岡 克尚 |
| 論文執筆者名 | 中井 紬 |
| 論文の題 (テーマ) | 福祉施設のネーミングを通して分析する、福祉に対する社会のイメージの考察 |
| 簡単な内容 (概要) | <p>神戸市にある社会福祉の事業所や施設、具体的には市内の第一種社会福祉事業、第二種社会福祉事業に基づく福祉サービスを提供する施設や事業所のうち、児童福祉法 (全 12 事業 733 施設)、老人福祉法 (全 5 事業 340 施設)、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (以下、障害者総合支援法) (全 19 事業 1621 施設)、合計で 35 事業、2694 施設を対象に、そのネーミングの特徴を分析した。具体的な分析方法は、先行研究に基づいて、名称に、ひらがな、カタカナ、漢字、その他 (数字など) のいずれか、あるいはどのような組み合わせが採用されているのかを中心としたものであり、単純ではあるものの、まだ誰も試みたことのないという意味では重要な示唆になる。分析の結果、法律や分野の違いにかかわらず、「漢字>カタカナ>ひらがな>英語>記号>数字」という順で、ネーミングに使用されていた。また、全体的に、それぞれの事業名 (例、「就労移行支援事業所」「グループホーム」「地域活動支援センター」など) を名称に使用しているケースが多く見られており、事業名称を除いたネーミングにしてしまうと、それでは福祉事業所、施設であることが十分伝わらないと考えられている可能性を示唆している (著者は、他法人・会社と区別をするために記号的に用いられる「イメージ型ネーミング」と称している)。逆に言えば、事業名を示さなければいけない程度に福祉施設の一般認知は低いものである、という結論を導き出している。</p> |
| 推薦の理由 | <p>「名は体を表す」とよく言われるが、企業がイメージ戦略として商品のネーミングを重視していることはよく知られている。すこし商品名を変えるだけで、その商品の売れ行きが大きく変わったという事例もあり、ネーミングがもつ影響力は大きいものがある。同時に、そうしたネーミングが成されること自体をとおして、企業がその商品にどのような意味合いを持たせたいと考えていたのかを分析することができる。さらに言えば、社会一般が持っている (持たされている) イメージもまたそこから抽出することもできるだろう。</p> <p>それでは、社会福祉分野におけるネーミング、具体的には事業所や施設などの名称はどのようなものになっているか、そしてそのネーミングから取り出され得る、社会全般が持っている (持たされている) 社会福祉に対するイメージとは一体どのようなものなのか。この点を分析したものが本卒業論文になる。この問題意識や目的設定におけるユニークさや独創性は大いに評価に値するものであろう。</p> |